

開業医のための スポーツ歯科医学の普及 を目指して



名古屋市・開業／愛知県歯科医師会専務理事 坂井 剛 Tsuyoshi SAKAI

「スポーツ・健康づくり歯学協議会 (SHP 協議会)」の発足

現在、愛知県歯科医師会はスポーツ歯科医学、そしてマウスガードの普及活動を行っておりますが、その経緯について述べます。

平成5年に歯科医師会のなかの調査室で、マウスガードに対する統一見解が必要ではないかとの意見が出されました。当時のマウスガードは材質や設計がバラバラで、マウスガードに対する認識も決して正しいとはいえませんでした。そして、会員から「マウスガード作製の講習会はないのか」、「講習会を開いてくれ」、「適当な材料はないのか」など、マウスガードに対する質問が寄せられるようになりました。

そこで、歯科医師会としての対応が始まったのですが、当初はスポーツ歯科医学普及のための組織があったわけではありません。とにかく、会員のために講習会を開いたり、できることからはじめました。平成7年ごろから日本歯科医師会の代議員会でもスポーツデンティストの資格の問題が出はじめ、日歯としての対応を望む声が年々大きくなりました。日歯も平成10年ごろになりますと、当時の菊池 豊常務が平成元年からスタートしてい

ましたスポーツ歯学研究会の大山喬史理事長に連絡を取り、日歯の代議員会での意見に対して「委員会を設置し検討したらどうか」という話がありましたが、立ち消えになってしまったのです。

そこで、愛知県歯科医師会ではきちっとした対応が必要だとの認識から、スポーツだけではなく、ヘルスプロモーションも視野に入れた活動を展開しようと、安井利一先生に特別講師と顧問をお願いし、「スポーツ・健康づくり歯学協議会」を設立し、全国ですでに活躍されていたスポーツデンティストにご協力をいただき、平成10年10月にSHPをスタートさせました。SHPにはスポーツ関連の行政関係者、教育委員会や愛知県のスポーツ医学関係者、静岡、三重、岐阜の各県の歯科医師会にも加わっていただきました。

また、愛知県の阿久比にはスポーツ医学研究所という民間の研究施設があります。このスポーツ医学研究所には入院施設もあり、整形外科医が常駐してプロスポーツ選手の治療を行ったり、医学的な相談にのっていました。施設内には歯科室もあり愛知県歯科医師会が担当し、治療は愛知学院大学歯学部をお願いしていました。歯科室では平成5年ごろから

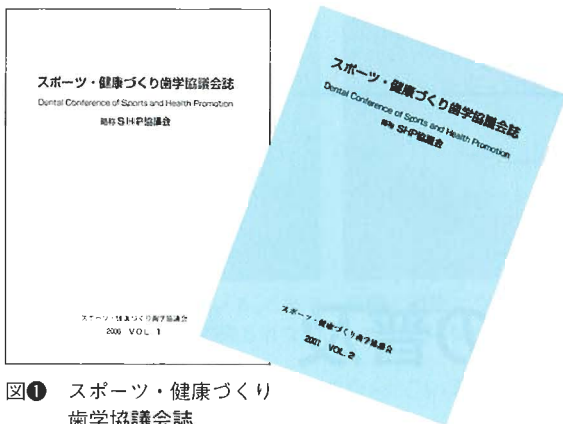


図1 スポーツ・健康づくり
歯学協議会誌

スポーツ歯科医学としてのマウスガードの普及を手掛けていました。

手探りからのスタート

SHPの発足にあたっては簡単な規約を作り、スポーツの関係団体、体育協会などにも参加していただいて、子供たちへのマウスガードの普及にも努めようと思いました。しかし、当時は東京歯科大学のスポーツ歯学研究室のような研究機関がなく、専門教育も受けていませんから、理論的なことがまったくわからないわけです。また、歯科医師として推奨できるマウスガードの材料や設計についても手探りの状態でした。実際には、スポーツ用品店で販売されているストックタイプが主流になっていましたから、何とか歯科医師によるカスタムメイドのマウスガードを普及させたいとの思いがありました。そのためには、スポーツ歯学研究会に参加していろいろ情報も集め、研究の成果を会員の先生方にお伝えするのがわれわれの役目だと考えたわけです。

ところが、スポーツ歯科医学の研究結果と開業医の仕事とはなかなか結び付きにくいのです。そこで、開業医に役立つ研究をしていただくための予算を組み、愛知学院大学歯学部、朝日大学歯学部、それから名古屋大学医学部口腔外科の3校から研究を募集しました。たとえば、開業医が作る場合のマウスガード

の製作方法、材料はどういうものがよいのか、設計はどのようにするのかなど、開業医が現場で実際に使えるような形での報告書がほしいということをお願いしたわけです。こうした研究成果は会誌にも掲載しました(図1)。

愛知県から始まった「8020運動」

ここまでくるには、実は1つの伏線があったのです。歯科医師会というのは開業医の集まりですから、誰もが医院経営を行いながらさらなる発展のために勉強をしているわけです。私が専務理事になったのは約14年前ですが、当時から「会員の医院経営の安定化ということの主眼に会務を行うように」と宮下和人会長から指示がでておりました。歯科医師過剰が問題になることはわかっていましたし、高齢化社会に向けて昭和63年に愛知県の衛生対策審議会の歯科専門部会で「8020運動」を打ち出すなど、さまざまな地域歯科保健活動を行って受診率の向上に努力していました。

ところが、「8020運動」が意外に大きな波及効果を及ぼしました。「8020運動」に関する疫学調査を行うと、80歳で20本歯がある人は健康度が高いことがわかったのです。こうした研究成果を踏まえて、平成4年に当時の厚生省も政策的に取り上げ、推進事業を行うようになりました。

平成8年の横浜ワークショップでは、厚生科学研究の研究課題のなかに、「口腔と運動機能」というテーマが入ったのです。これには大山喬史先生が関わっていらっしゃるのですが、正式に「8020運動」の1つの分野として、厚生科学研究費を使った研究が行われるようになり、いままで個別に行われていた研究が一気に「口腔と全身の健康に関する研究」として統合され、スポーツ歯学も含めて幅広い

組織的な研究に発展していったのです。

スポーツ外傷予防のための マウスガードの普及活動

「8020運動」の一環としてさまざまな学術的な分野の研究が進んでいたわけですが、SHPでも「8020運動」達成のためには、子供のスポーツ外傷による歯の喪失を予防する必要があるとの見解から、マウスガードの普及活動をもっと積極的に推進すると同時に、ヘルスプロモーションという理念のもと、将来的には国民の健康づくりに貢献するという方向性を打ち出しました。

そこで、以下のいくつかの問題提起を行いました。

1. 医療用具としての承認の問題

行政に働きかけてマウスガードを医療用具として認知してもらうことで、歯科医師の知識と技術に裏付けされたカスタムメイドマウスガードの普及活動を行う。

2. 価格の問題

たとえば、できるだけ安く提供するためにも安全会などのお見舞金を、子供たちのスポーツ外傷を予防するためのマウスガード製作費として助成ができないだろうか。

3. マウスガード装着の義務化

学校で行うスポーツや一般のスポーツ競技のうち、マウスガードの必要な種目については義務化を行う。あるいはルールのなかで装着を薦めていく。

SHPがこうした働きかけを行うためには、日本歯科医師会をはじめ全国の歯科医師会の協力を仰ぎ、全国的な規模で展開しなければなりません。そこで、全国に呼びかけたところ、16県の歯科医師会の賛同を得ることができました。そして、歯科医師会レベルで組織的な情報交換を行って、カスタムメイドのマ

ウスガードを普及させる活動を行うことになりました。当然、スポーツ歯科医学会所属の先生方に学術的な研究をお願いし、研究成果を開業医に情報提供していくことにしました。また一方で、カスタムメイドマウスガード作製の講習会を開くなど、受け皿づくりを急ぐことになったわけです。

「全国スポーツ・健康づくり歯学連絡協議会」の立ち上げ

ところが、日歯の代議員会からの要望であるスポーツデンティストの資格の問題などに対して、日本歯科医師会がなかなか対応してくれないという状況が続いたわけです。平成12年に臼田執行部が変わって、その期待が大きくなった折、平成13年6月に第12回の日本スポーツ歯科医学会学術大会を愛知県歯科医師会の主催で開催することが決定し、全国に呼びかけるよいきっかけになるのではないかと考えました。そのころ、石上恵一先生が関わっていらっしゃる極真会でのマウスガードの装着義務化という話もあり、もし全国組織の大きな団体が義務化ということになれば、需要も急速に増えることとなります。この需要に対して受け皿がなければ困りますので、全国の歯科医師会に受け皿となる組織づくりへの協力を呼びかけ、学術大会前日に第1回の「全国スポーツ・健康づくり歯学連絡協議会」を立ち上げ、スタートしました。そのときには28県の参加でしたが、現在は30県になっています。できれば、ここ1、2年で47都道府県すべてに参加していただき、全国規模の組織にしていく必要があると考えています。

開業医のためのスポーツ歯科医学の普及を目指して

スポーツ歯科医学としての研究や、スポーツ外傷予防のためのマウスガード普及活動

も始まったばかりです。社会に対してさまざまな形でアピールする一方で、受け皿となる歯科医師の育成・養成が急務になっています。そして、マウスガード作製の考え方や基本手技の確立、材料・器械の開発など、やるべきことはたくさんあります。今後も学会や関係機関とタイアップして、さまざまな研究が行われ、理論的な裏付けを確立していく必要があると考えております。

開業医の先生方に、スポーツ歯科医学をもっと身近な分野として臨床に取り入れていただくためにも、専門的な活動組織は必要ですし、学会としての研究活動も必要です。そして、お互いに情報交換を行いながらスポーツ歯科医学を普及させたいと考えております。近い将来、どこの歯科大学にもスポーツ歯科医学の講座ができ、専門的教育を受けた多くの歯科医師が世に出てくると思いますが、それまでにはまだ時間がかかります。それではいまの社会的な要求には応えられないし、追いついていけないのです。そのためには、いまある学会と歯科医師会という組織がうまく連携を取り合って、取り組んでいく必要があるだろうと思います。

全国組織ができてから、私は事務局のまとめ役として活動を開始しました。今年7月20日には岩手県で第2回の「全国スポーツ・健康づくり歯学連絡協議会」を開催することになっています。また先般、大島慶久参議院議員にお願いして、文部科学省のスポーツ青少年局長にお会いし、マウスガードの普及について何らかの法的な措置、あるいは支援をお願いしてまいりました。そのときのねらいは、実はサッカーくじです。サッカーくじは文部科学省の管轄になっています。その収益金の助成対象はスポーツ団体に限られますの

で、われわれの委員会がマウスガードの普及活動を行おうとしても助成対象にはならないのです。そこで、将来的に国を担う子供たちのスポーツ振興とスポーツ外傷予防を目的としたマウスガード作製のための補助金として助成していただけないかとお願いしてきました。もちろん、われわれ歯科医師も積極的にフォローしていくことを約束してきました。このように対外的な活動も含めて実際に活動を開始しております。

歯科医療改革の旗手となるか

21世紀の日本は少子高齢化と人口減少によって、過去に例のない右肩下がり社会経済状況が現実のものとなり、日本社会のあらゆる分野で構造改革を迫られています。医療においても「健康日本21」が策定され、従来の疾病治療から生活習慣病の予防へ、さらに国民の健康づくりへと向かっています。

歯科においては、いまだに疾病構造の変化、歯科医師過剰、医療費抑制などによる閉塞状態にあり、早くこれを脱却して、21世紀の新しい歯科医療の構築に向かわなければなりません。幸い歯科は平成元年から推進してきた「8020運動」が評価され、「健康日本21」の目標の1つとして「歯の健康」が取り入れられ、21世紀の歯科医療は国民の健康づくりへとシフトすることになり、健康医学の一分野としてスポーツ歯科医学の役割が重要になってきました。「全国スポーツ・健康づくり歯学連絡協議会」の活動が、歯科医療改革の旗手となることが期待されています。

坂井歯科医院
〒466-0833 愛知県名古屋市中区丸の内3-5-18
社団法人 愛知県歯科医師会
〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内3-5-18